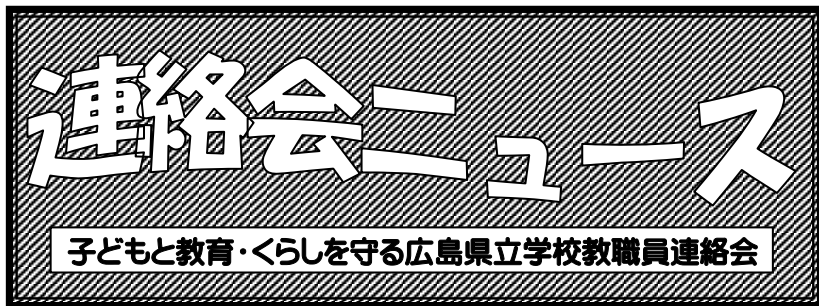


●「教える」とは、希望を語ること。「学ぶ」とは、誠実を胸に刻むこと。(ルイ・アラゴン)



No.1270 2024/01/11 (Thu)

発行 広島高校連絡会事務局

Email renraku-kuko@mx6.tiki.ne.jp

HP <http://ww6.tiki.ne.jp/~renraku-kuko/>

携帯 090-1180-7644 (村井義幸)

090-9738-8264 (望月照巳)

新春 (中四国新英研+関西新英研) 英語合同研究会

歴史が息づく風情ある町・倉敷で

この時期、新英語教育研究会ではブロック集会を開いていますが、今回は初めて関西と中四国が合同で1月6日と7日、倉敷で開催しました。この3年間は、コロナ感染拡大によりオンラインのみでしたが、4年ぶりに対面での集会を開き、オンラインも併用しました。現地で30名、なんとオンラインでは約130名の参加がありました。

1日目は午後から始まり、まず広島の岩崎しおりさん(五月が丘中学校)が「初めて取り組んだ仮定法の導入」と題して、2年前より高校ではなく中学校で教えることになった文法事項の導入の発表をしました。

「おかしすぎるぞ、いまの英語教育政策！ わたしたちならこう変える」と

いうテーマで、江利川春雄さん(和歌山大学名誉教授)と大津由紀雄さん(慶応義塾大学名誉教授)が対談形式で講演を行いました。その中で、今の英語教育の問題点をあげられました。

- 英語エリート政策 : 格差化と切り捨て
- 技能一辺倒主義 : 目的論の誤り
- 膨大なノルマ : 語彙・教材の過多
- オーラル偏重 : 生活言語と学習言語の錯覚
- 小学校英語の教科化 : 英語嫌いの増加



そしてこれらの問題点に対して江利川さんは、私ならつぎのように変えると言われました。

- 平等と協同の原理で、全員の学びを育む
- 言語・文化の面白さ、平和志向の人間育成
- 学習言語に応じた読解力を核に
- ／● 語彙・教材の精選でノルマの負担を減らす
- ／● 小学校は日本語+外国語=ことばの学び

二日目は、愛媛県の小学校で英語の専科として教えている吉見加奈子さんが、「小学校外国語活動を支える地域の力」と題して実践報告、島根県の私立高校で教えている中川エステルさんが「英語教育を通して真の平和を考える」という題で実践報告をしました。倉敷に来た参加者からは、「やはり、対面での研究会の方がよい」という感想が多く出ました。来年は、広島でこの時期に開催される予定です。

(望月 照巳)



▼「すべては、この赤旗日曜版」のスクープから始まった

▼一月九日のBS/BS「報道1930」で、自民党パーティー券の裏金問題の特集。立憲民主党長妻政調会長、維新は音喜多政調会長、そして共産党の小池書記局長の参加で番組は始まった▼三党の党運営資金比較では、立憲、維新の両党が政党助成金で運営されているのに比べて、共産党が「しんぶん『赤旗』」の売り上げなどで運営されていること。何故そのようなことが出来るのかと問い、冒頭の紹介から、赤旗編集部への取材、そして内容も芸能分野も充実していることなど、小池さんの説明も含めて丁寧に紹介▼常に攻撃されていることになれている共産党(私)としては、少し照れる程のドストライクでした▼サンモニで、田中優子元法政大学長でも「新聞記者が丁寧に、数字を比較し、『おかしい』として、上脇教授に問い合わせて、『これは大変だ』という事で、告発したんですね」と「赤旗」のスクープには触れなかった▼間違いなく自民党の心臓部を射抜いたスクープ▼キャスターの松原耕二は「『政治を変えてほしい』という国民の声にこたえるために野党はどう対応しますか」と問い、維新の逃げ腰、立憲の及び腰も明白になりました▼激動の情勢を切り開く努力を、さあ!